

令和元年度ヤマビル生息状況アンケート調査報告

1 背景と目的

ヤマビルは、野生鳥獣に付着して分布域を拡大することが示唆されており、イノシシやニホンジカ等の野生鳥獣の生息状況の変化に伴い、近年、丹沢山地全域においてヤマビルによる被害が深刻化し、さらなる分布域の拡大が懸念されている。

本県では 2001 年に丹沢山地が含まれる各地区農政事務所や行政センター等にヤマビルの生息について聞き取り調査が行われ、2005 年には各地区農政事務所や行政センター（2005 年から名称が地域県政総合センターに変更）、および丹沢山地で事業を行っている関係機関にヤマビル目撃情報調査記録票を送付し、情報の提供を依頼すると共に聞き取り調査が行われた（図 1，2）。また、2007 年、2008 年には県試験研究機関を中心に、民間研究機関、大学と協力してヤマビル対策共同研究が実施され、ヤマビルの生息が確認されている市町村への聞き取り調査、踏査による生息分布域調査が実施された（図 3）。

これらの調査以降、全県での生息状況調査は実施されていなかったため、現時点での生息状況を把握することを目的に調査を実施した。

2 方法

・調査方法

記名アンケート

・アンケート対象者

各地域の農業協同組合、ビジターセンター、猟友会、市町村の農林業・環境関係部署、県の農林業・環境関係部署など

・調査内容

3 次メッシュ（約 1 × 1 km）で区画されたアンケート地図を用意し、平成 29 年度から令和元年度の期間でヤマビルを目撃（目視、吸血被害等）した地点を含むメッシュにチェックを入れてもらうことにより分布域を把握した。

3 結果と考察

目撃情報のあった場所を 3 次メッシュ地図に落とした（図 4）。アンケート調査であるため単純な比較はできないが、2007 年・2008 年の調査結果と比較すると、ヤマビルは、南、北、西側に分布を広げている。当時の調査で生息が確認された市町村は、相模原市、愛川町、厚木市、清川村、伊勢原市、秦野市、松田町、山北町であったが、今回の調査では新たに南足柄市、大井町でも生息が確認され、県南部への拡大が見られた。また、山北町では、山北町の玄倉の一部で数か所点的な生息が確認される程度であったが、今回の調査で面的に分布が拡大していることが確認された。さらに、相模原市緑区では、相模川以北での生息は確認されなかったが、牧野地域のより北部への分布拡大が確認された。

ヤマビルの拡大要因は、宿主であるニホンジカ、イノシシ等の分布拡大や人による運搬が指摘されることから、引き続き、関係機関による捕獲事業の継続、強化や入山者への普及啓発が必要である。また、人里では、ヤマビルの防除対策に効果的とされる草刈りなど地域での環境整備活動が求められる。今後も定期的にヤマビルの生息状況を把握し、ヤマビル防除対策に活用していく必要がある。

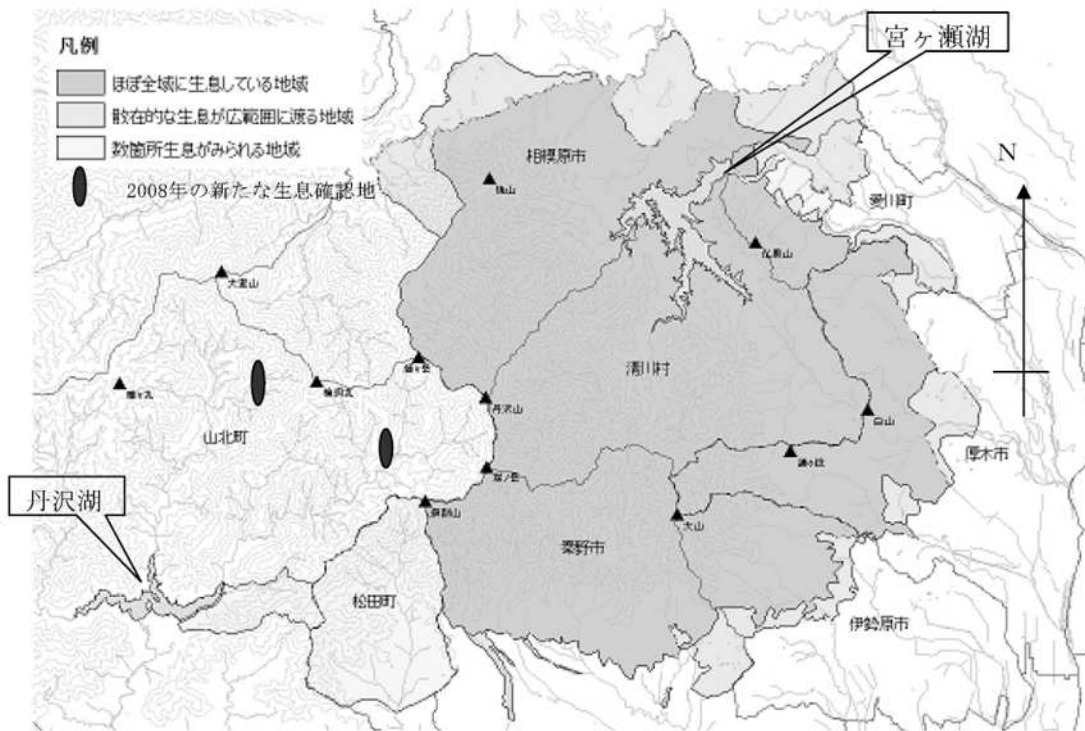


図3 2007年ヤマビル分布図（ヤマビル対策共同研究報告書 P22 より）

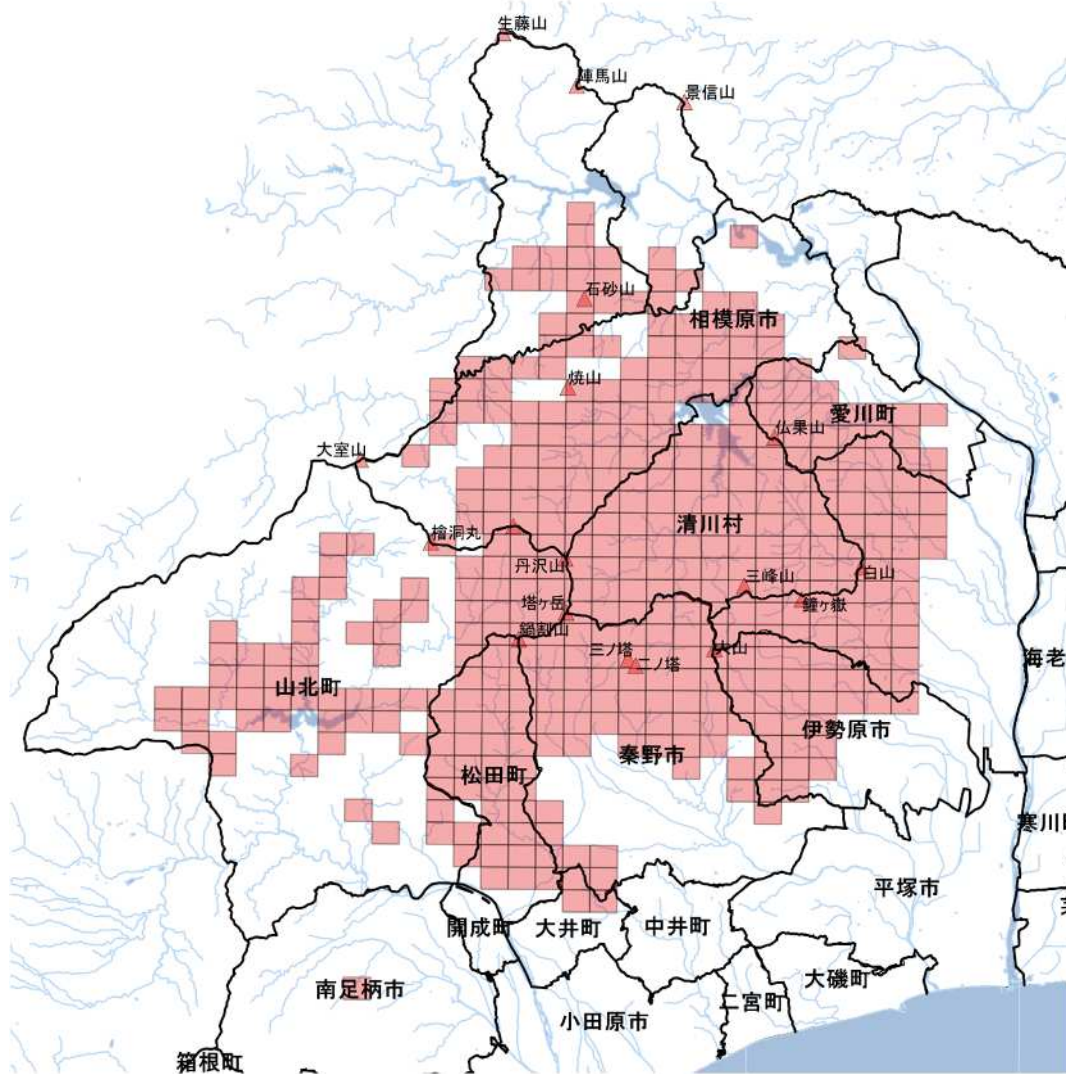


図4 2017~2019年ヤマビル分布図（H29~R1 ヤマビル生息状況アンケート調査より）